

カナダの金融市場動向 Weekly Report

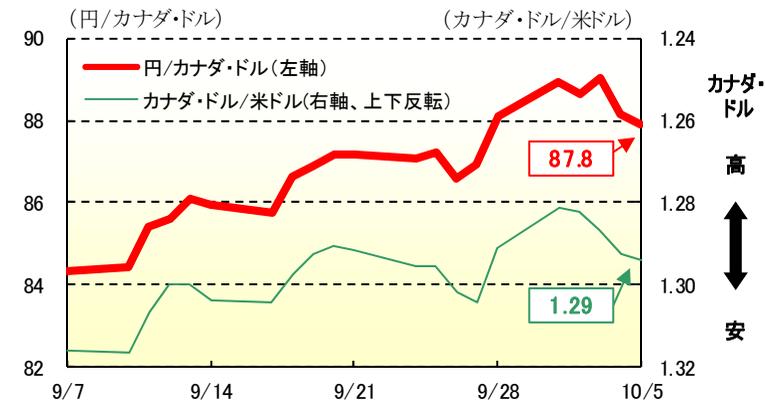
【2018年9月29日～2018年10月5日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは対円、対米ドルともにほぼ横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

週前半は、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉で合意したとの報道を受け、メキシコを含めた3カ国の新しい自由貿易協定が締結される見通しとなったことから、カナダ・ドルおよびカナダ金利は上昇しました。週後半には9月の雇用統計、8月の貿易収支の発表があり、双方ともに良好な結果となったものの、市場への反応は限定的となり、原油価格の下落等を背景にカナダ・ドルは下落しました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年9月7日～2018年10月5日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週、10/9(現地)には、カナダの住宅着工件数が発表され、予想を下回る結果となりました。他にも住宅関連の指標が複数発表される予定になっていますが、注目度は低く、市場では原油価格の動向などに注目が集まるとみえています。

カナダについては、先週発表になった好調な雇用統計や、インフレ率が上昇基調にあることなどを受けて、利上げ期待が高まっています。また、貿易問題での不透明感も後退したことから、カナダの金利や通貨は上昇圧力が優勢になるとみえています。

【カナダ 金利推移】 (2018年9月7日～2018年10月5日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>